

I 2012 年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016 年度大学評価結果総評】

情報科学部は理念・目的に「技術基盤を確立した人材の育成」を掲げており、その一環として 2015 年度より新しいコース制を導入した。それぞれのコースに必修・選択必修科目を設けて、修得の積み上げによって体系的な技術基盤を築こうとする試みであり、積極的に評価できる。

FD 活動としてはグループワーク講義模擬授業の全教員による体験、担当科目 1 科目のビデオ撮影およびその内外評価のフィードバックを実施しており、高く評価できる。

この他にも、学習から学生生活までをサポートする GBC の運営、キャリアデザイン・学習計画・学生生活を一括管理するポートフォリオの導入、個々の学生と担当教員がポートフォリオを通じてキャリア形成にあたる仕組みの導入、情報科学部用各種サーバーなどを管理する有志学生チーム RAT を通じた自主性とチームワークの養成など、多岐に渡った独自の取り組みが精力的になされており、評価できる。

情報科学部における 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応については、「質保証委員会の学部における役割とその活動についての詳細な記述が望まれる」との指摘を受けているものの、自己点検・評価シートには詳細な記述が依然としてない状況であり、改善が望まれるが、ヒアリングでの確認では、執行部とは別に質保証委員会を設置し、年に何回か学部運営に関して検討してもらうことに変更されたとのことであるので、今後の活動と提言に期待したい。

【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

評価委員会からの指摘にある「質保証委員会の学部における役割」については、以下の対応を行った

- ・ 2015 年度までは、執行部が質保証委員会となって活動を主導する形態を取っていたが、2016 年度からは、執行部主導の活動をチェックする形をとった。
- ・ 2016 年度については、年 2 回の自己点検評価の際に学部の活動に対するチェックを行った。

【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

情報科学部における 2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応について「質保証委員会の学部における役割とその活動についての詳細な記述が望まれる」との指摘を受けている部分は、以下の対応が取られた。

2015 年度までは、執行部が質保証委員会となって活動を主導する形態を取っていたが、2016 年度からは、執行部とは別に質保証委員会を設置し、年 2 回の自己点検・評価の際に学部の活動に対するチェックを行う形とした。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

① 質保証委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

- ・ 質保証委員会の構成：執行部以外の学部教授会構成員 3 名
- ・ 開催日：必要に応じてメールベースや委員間の直接連絡で意見交換を行っている。執行部と面談による議論が必要な場合は、隔週水曜日の午後に開催している主任教授会で議論する形になっているが、2016 年度についてはその必要はなかった。
- ・ 質保証委員会の役割は、学部執行部が中心となる教学に関する施策や運用についてのチェックとなっている。基本的な議題は自己点検報告の内容を確認した上での内容の検討と指摘である。2016 年度については、自己点検・評価シートの記載内容について、質保証委員会から具体的な根拠の補強の指摘があり、修正したものを教授会で再承認して提出した。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ 執行部の教学活動の運営をチェックするという位置づけでの質保証委員会の体制に移行した。	1. 1①

【この基準の大学評価】

情報科学部の質保証委員会は、その構成（執行部以外の学部教授会構成員3名）、開催日（メールベースや委員間の直接連絡）及び議題（自己点検報告の内容に対する検討と指摘）についての記載から、適切に活動されているものと評価される。質保証委員会の自己点検・評価活動は、学部教授会で報告・提案・承認が適宜行われ、その内容は教授会議事録に記載されている。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	
【学位授与方針】	
<p>本学部では、入学後4年以上在学し、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に、学士(理学)の学位を授与する。卒業にあっては、以下の点に到達していることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現実世界の現象や人々の行動に対しての抽象化やそのモデルを理解する能力を修得している 2. 情報科学の概念や基礎体系を修得している 3. 情報科学に関する幅広い視野を身につけ、国際的なコミュニケーションができる 4. コンピューティングかメディア情報についての知識とスキルを修得している 	
①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
【教育課程の編成・実施方針】	
<p>本学部の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。</p> <p>■カリキュラムの構造</p> <p>情報科学の急速な進歩に適応するため、学問体系として変化の少ない基盤部分と技術の進歩に応じて変化する最先端部分とを分けて編成する。基盤部分は、情報科学分野の国際・国内学会で策定されたカリキュラムに準拠した構成・内容とする。最先端部分は、各教員の研究内容と位置づけることで、プロジェクト形式の教育、卒業研究の指導を行う。</p> <p>■初年次教育の構成</p> <p>初年次教育は、情報科学の枠組みと基本概念を把握するための専門基礎科目とともに、専門分野の理解に必要・有用な科学基礎・外国語・教養を学ぶための科目によって構成する。</p> <p>■科学基礎教育の構成</p> <p>科学基礎教育は、情報科学分野の学習の背景となる数学・物理の基礎的科目によって構成する。</p> <p>■外国語教育の構成</p> <p>外国語教育は、情報科学分野の主要言語である英語に特化し、理解力・表現力を身につけるための科目によって構成する。</p> <p>■教養教育の構成</p> <p>教養教育は、情報科学分野の知見を現代社会で活用してゆくために有用な知識・能力を身につけるための科目によって構成する。</p> <p>■専門教育の構成</p> <p>専門教育は、情報科学分野を理解するために必要となる理論等の基礎科目、情報科学の専門的知識・スキルを身につけるためのプログラミング、ソフトウェア、ハードウェア、メディア処理、応用技術に関する科目、問題を洗い出し解決する力をつけるための情報科学プロジェクトと卒業研究によって構成する。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。 ・情報科学部ホームページ http://cis.k.hosei.ac.jp/	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 教育目標・学位授与方針・教育課程の編成については、学部執行部の依頼によりカリキュラム委員会(常設)に原案を作成し、学部執行部の検討を経て教授会の議論を踏まえて決定している。実施方針については学部執行部が検討し、教授会に諮り実施している。このように立場を明確化した複数の観点で検討のステップを踏むことで適切な検証プロセスを実現している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 2015年度カリキュラムから、より基礎教育に重点を置いた教育課程になっている。学士力を担保するために、座学による講義に加えて演習科目を多く配置し、問題を解きながら学べる科目構成を導入した。また、数理実験を新たに導入し、実験をとおして、グループとしての問題解決方法の指導を行うと共に、ものを考え、それをレポートにまとめる能力の育成をはかっている。	
【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等 ・法政大学学則 情報科学部設置科目	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。 ACMや情報処理学会のカリキュラム標準によりコアカリキュラムを設計し、情報科学分野の最新の動向に対応した改訂を3年から4年ごとに行っている。2015年度新入生から情報科学分野の知識体系をコースとして明確化した新カリキュラムを採用し、年次進行的に新授業科目を開講している。順次的・体系的な履修を明確にするように、コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学の各コースのカリキュラムツリーを作成し、ガイダンスにて学生に説明している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2年生ガイダンス資料(コース制カリキュラムツリー) https://cis.k.hosei.ac.jp/faculty/wiki.cgi?page=%A5%AC%A5%A4%A5%0%A5%F3%A5%B92016&file=2016%2DCIS%2D2%2D20160916%2Eptx&action=ATTACH	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 2015年度からの新カリキュラムでは、卒業所要単位に、外国語科目10単位、教養科目10単位の履修が必要としており、情報科学の専門分野以外の幅広い教養を身につけることを求めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学学則 情報科学部設置科目	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。 初年次教育には、数理実験においてレポートの作成の基礎的な指導を行っている。また、情報科学リテラシーにおいて、	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

理系の専門分野の学習に備えた技術英文の読解の導入講義を行っている。また、数学・物理系の基礎科目においては高校の学習との連続性に配慮して講義内容を設定している。また、情報科学の導入的な基礎科目として、情報科学入門、コンピュータシステム入門 1/2、プログラミング入門を設置している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

卒業所要単位の外国語科目 10 単位に加え、英語での学会等の発表を想定したテクニカルプレゼンテーションを開講している。また、情報科学特講では英語論文を読むことを推奨し、その論文内容の発表会を開催している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

(～400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

3 年次にインターンシップを開講し、企業での夏及び春のインターンシップ参加を推奨している。資格取得に向けては、情報処理技術者試験の受験を推奨し、集中講義による教育を実践している。多くの企業で英語力の把握に使っている TOEIC を年 2 回学部で実施し、英語力の定着を目指している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目

2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

① 学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・入学時に数学のプレースメントテストを実施し、習熟度による科目選択を指導している。
- ・英語は入学時の TOEIC をプレースメントテストとして活用し、習熟度別クラスを編成している。
- ・学科を横断したコース制を導入し、身につける情報科学分野の知識体系をコースとして選択させている。
- ・基礎科目において学び直しの仕組みを導入するとともに、主要な科目に置いて前提履修科目を設定している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・数学プレースメントテスト及び入学時 TOEIC の成績資料
- ・2 年生ガイダンス資料 (コース制カリキュラムツリー)

<https://cis.k.hosei.ac.jp/faculty/wiki.cgi?page=%A5%AC%A5%A4%A5%CO%A5%F3%A5%B92016&file=2016%2DCIS%2D2%2D20160916%2Epptx&action=ATTACH>

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

各科目において、授業時間外の学習時間が適切に確保できるよう課題を調整している。また、教員のオフィスアワーを GBC(Glass Box Office Hour Center)に集約し、学生アシスタント(SA)と共に、学習支援を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GBC ホームページ <http://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/>
- ・情報科学部時間割表

③学生の学習時間 (予習・復習) を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

授業改善アンケートの結果を振り返り、各科目の授業外学習の時間の到達度を把握し、授業外学習の短い科目については、次年度以降に課題量を調整するなどの措置を行っている。また、GBC にて、授業外学習の支援を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GBC ホームページ <http://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/>

④1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。

はい いいえ

【履修登録単位数の上限設定】※1 年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

- ・年間 49 単位を上限としている

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。 ・成績優秀者(前年度 GPA3.0 以上)については 56 単位まで履修上限の緩和を行っている。また、教職・資格科目やリクエスト集中講義、大学院先修科目についてはこの制限の対象外としている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・履修ガイド</p>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※簡条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <p>・情報科学プロジェクトにより1年次秋学期から PBL 型の講義を実施している。早い段階から専門分野への興味を引き出すことで、基礎・専門科目の学習/理解の動機となることを目している。</p> <p>・学生のリクエストによって開講する「リクエスト集中講義」科目があり、夏季休業、春期休業を中心に開講している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・情報科学部ホームページ http://cis.k.hosei.ac.jp/</p>	
⑥それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400 字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>・講義に関しては、学科・コース毎の必修・選択の違いや基礎科目であるか否かといった観点から受講者数を想定し、適正なクラス規模となるように必要に応じて複数のクラスを開講している。</p> <p>・英語については少人数クラスを展開している。</p> <p>・演習科目については、想定される見込み履修者から少人数クラスとなるようなクラス数を開講している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・情報科学部時間割表</p>	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <p>・教授会において全科目のシラバスについてシラバスチェックを行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第 326 回教授会議事録「シラバスチェック結果」</p>	
⑨授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <p>・授業改善アンケートにて確認すると共に、相互授業参観の実施を進めている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第 328 回教授会議事録「2016 年度授業改善アンケート情報開示請求」</p>	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
① 成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。</p> <p>・基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度について教授会で意見交換している。2015 年度からの新カリキュラムでは、単位認定と先修条件を分離し、習熟度の低い履修科目について後続科目を履修する前に定着度を上げるために、一部の科目を学び直し科目と設定した。学び直し科目の履修状況については分析し自己点検等の際に確認している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016 年度自己点検・評価シート</p>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。 基準を設け実施している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。 厳格な評価をスムーズに行うために、科目ごとの教員裁量による成績評価を集約した科目横断的な総合判断も行っている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

基礎科目群においては単位認定と成績評価を分離し、後続科目への必要性に応じた適切な評価を実現している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・履修ガイド p.15「科目の『学び直し』について」	
④学生就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・教授会にて、学生就職状況・進学状況を報告している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第315回教授会議事録「就職」	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・GPAの分布、単位取得状況、授業への出席状況など、学生の詳細なデータで把握して分析し、教授会で情報共有している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・単位取得状況資料、授業出席率資料など	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 ・基礎科目群ではMastery Testsを実施している。必修科目の英語ではTOEICの受験を単に認定の前提条件とし、全学生のTOEICの成績を成果測定に利用している。学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格者数も指標としている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・TOEIC受検結果、学会発表一覧、等	
③学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。 ・2015年度まで学部独自のポートフォリオシステムで学習目標と成果（プログラミング、TOEIC、GPAの分布）を提供してきた。2016年度から、このシステムの中で利用の多い部分に特化したシステムに移行して、GPA、TOEICなどの情報を提供している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
（～400字程度まで）※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・年度末の進級判定にあたって、成績分布、単位取得状況の分析を行っている。 ・単位取得数が少ない学生とは、保護者を含めた面談を行い、状況の確認を行っている。 ・分析結果と面談の状況は教授会に報告し情報共有している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・成績不振者向け保護者面談会の案内	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・授業改善アンケートの結果を、データで入手し、学部教授会内で共有し、分析を行っている。 ・全教員のデータを全教授会メンバーが閲覧できるようにしている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第328回教授会議事録「2016年度授業改善アンケート情報開示請求」	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・2015 年度に行ったカリキュラム改革が来年度で一巡するので、単位認定と先修条件の分離や学び直しの効果や、コース毎の学修状況の把握を行う必要がある。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

情報科学部の学位授与方針は 4 項目を挙げて明確に設定されている。この方針を踏まえて教育課程の編成・実施方針が定められ、これらは web 上で公開されている。カリキュラムの構造は大きく基盤部分と最先端部分に分かれ、特に基盤部分は、情報科学分野の国際・国内学会で策定されたカリキュラム (IEEE/ACM の CC2013 および情報処理学会の J07) に準拠した構成・内容となっている。

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスについては、カリキュラム委員会、学部執行部、教授会という 3 つの立場を明確化した複数の観点で検討のステップを踏むことで適切に実行されている。

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

情報科学部の 2015 年度からのカリキュラムでは、学士力向上のため、座学講義に加えて演習科目・数理実験を多く配置することで、より基礎教育に重点を置いており、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程といえる。

ACM 及び情報処理学会のカリキュラム標準によりコアカリキュラムを設計していること、さらには情報科学分野の知識体系をコースとして明確化した新カリキュラムを採用し、年次進行的に新授業科目を開講していることは、カリキュラムの順次性・体系性に資するものとして評価される。

新カリキュラムでは外国語・教養科目の 20 単位を卒業所要単位としており、専門分野以外の幅広い教養を身につける教育課程が編成されている。

初年次のレポート作成指導や添削指導は 6 クラスの少人数体制によりきめ細かい指導が行われており、高大接続への配慮として十分機能する配慮であると評価される。

国際性を涵養するための教育内容としては、外国語科目に加えて「テクニカルプレゼンテーション」科目を開講しており、高く評価される。

インターンシップへの参加を推奨するとともに、情報処理技術者や TOEIC などの資格試験へ積極的に取り組ませる方向性はキャリア教育の一環として評価できる。

③教育方法に関すること (2.4)

学生の履修指導については、習熟度による科目・クラス選択を指導しているほか、学科を横断したコース制を導入し、身につける情報科学分野の知識体系をコースとして選択させるなど、適切に行われているものと評価される。また、各教員のオフィスアワーを GBC に集約し、SA とともに学習支援を運用している点は、学生への学習指導という側面から高く評価できる。

学生の学習時間を確保するための方策について、学部独自の GBC により授業外学習の支援を行っている。また授業改善アンケートの内容を次年度の課題量の調節などにフィードバックする手法は評価される。

年間 49 単位を履修登録単位の上限としており適切である。

効果的な授業形態の導入への取り組みについて、1 年次から PBL 型の授業を実施することは、先進的な取り組みとして高く評価できる。また、学生のリクエストによって開講する「リクエスト集中講義」も独自の取り組みであり、今後の展開に期待したい。

必要に応じて複数のクラスを開講していること、及び英語・演習科目については少人数クラスを展開していることなど、授業あたりの学生数は配慮されている。

シラバスが適切に作成されているかの検証については、教授会において全科目チェックが行われている。また、授業が

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

シラバスに沿って行われているかどうかは、授業アンケートによって確認が行われており適切である。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5~2.7)

情報科学部の成績評価と単位認定の適切性については、基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度について教授会で意見交換することで確認している。また、一部の科目に学び直し科目を設けるなど、成績評価と単位認定は適切である。

他大学等における既修得単位数の認定は、学部内基準を設けて実施され、最終的には教授会が責任を持つ体制となっているが、2016年度の認定実績はない。

厳格な成績評価を行うための方策については、科目横断的な総合判断を行うなど工夫が施されている。学生の就職や進学状況は教授会で報告・把握されている。また、成績分布や進級情報も教授会で共有されている。

学生の学習成果の把握・評価については、進級判定の際に成績分布・単位取得状況の分析を行い、その結果をもとに単位取得数が少ない学生に関して保護者を含めた面談を行うという取り組みを行っており、学生と保護者双方に問題に向き合うきっかけを作るという観点からも高く評価できる。また、学習成果の可視化については、後続科目の理解に重要な1、2年次の必修科目のうちの4科目について、オンラインウェブベースによる基礎学力認定試験(Mastery Test)を実施したり、独自のポートフォリオシステムを構築し活用していることは高く評価できる。

学習成果の検証と改善に向けた取り組みについては、進級判定にあたって、成績分布、単位取得状況の分析を行ったうえで、単位取得数が少ない学生とは、保護者を含めた面談を行い、状況の確認を行った後、分析結果と面談の状況を教授会に報告し情報共有されている。

また、授業改善アンケートデータを学部教授会内で共有し、かつ全教員のデータを全教授会メンバーが閲覧できるようにした仕組みを作り、運用していることは、教員の授業の「あり方」に対する透明性の確保という観点から、優れた取り組みであると評価される。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本学部が教育理念とする人材を育成するために重視する学生の能力および資質は、①基礎学力、②論理的思考力、③コミュニケーション力、④意欲、主体性、行動力、⑤志望や適性である。高等学校で学んだ基礎学力を身に付け、単なる暗記ではなく、知識を駆使して解を導く論理的思考力を備え、自らの考えを矛盾なく表現し、互いに議論することで切磋琢磨していきたく望む学生を求める。このため、これらの能力を備えた学生を多様な選抜制度により受け入れる。

●一般入試(A方式入試、T日程入試およびセンター入試利用入試等)

学力を重視した受入を行う。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に関して、数学、物理、英語の試験により、基礎学力の定着度をはかり、論理的思考力とコミュニケーション力の基盤を備えているか確認する。

●推薦入試(指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツに優れた者の特別推薦入試等)

自主性・人間性を重視した受入を行う。「知識・技能」に関して、調査書により、高等学校で学んだ学習の達成度を確認する。また、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・態度」に関して、志望書により、志望動機や適性をみるとともに論理的な文章作成能力を確認する。さらに、「意欲・態度」に関して、面接試験にてコミュニケーション力、意欲および適正を確認する。

●特別入試(公募推薦入試等)

学力、及び、自主性・人間性を重視した受入を行う。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に関して、筆記試験にて、基礎学力と論理的思考力を測る。さらに、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・態度」に関して、面接試験にてコミュニケーション力、意欲および志望や適性を確認する。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

過去の入学状況の分析結果に基づき、入試査定を行い、適切な入学定員となるよう管理している。2017 年度入試では順調な手続き状況により超過率 1.04 という結果になったが、2017 年度の過去 3 年平均は 1.01 と引き続き適切な充足を保っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・下記の定員充足率参照

定員充足率 (2012～2016 年度)

(各年度 5 月 1 日現在)

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5 年平均
入学定員	150 名	156 名	156 名	156 名	156 名	
入学者数	161 名	173 名	148 名	156 名	155 名	
入学定員充足率	1.07	1.11	0.95	1.00	0.99	1.02
収容定員	600 名	606 名	612 名	618 名	624 名	
在籍学生数	669 名	677 名	660 名	656 名	632 名	
収容定員充足率	1.12	1.12	1.08	1.06	1.01	1.08

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】 ※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・入学経路ごとに入学後の成績の追跡調査を行っている。
- ・入学後の成績調査結果に基づき、指定校の入れ替えや条件変更を適切に行っている。
- ・公募推薦入試、英語外部試験利用入試、日本語学校指定校推薦入試など新しい入試方式を導入し、一般入試や指定校入試の見直しを進めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・第 330 回教授会議事録「指定校推薦 (含日本語学校)」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
----	---------

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

・特になし	
-------	--

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・公募推薦入試の入学者の学修状況の追跡により、主に指定校推薦入試の積極的案見直しを進めていく。

【この基準の大学評価】

<p>情報科学部の学生の受け入れ方針については、学部としての方針及び各入学経路ごとの受け入れ方針が策定され、ホームページで公表されている。</p> <p>定員の超過・未充足への対応については、過去の入学状況の分析結果に基づき、入試査定を行い、適切な入学定員となるよう管理されており、2012～2016年度5年間の平均は1.02となっている。</p> <p>入学者選抜結果の検証と改善に向けた取り組みについて、入学経路ごとに入学後の成績の追跡調査を行い、その結果に基づいて指定校の変更を行っていること、及び公募推薦入試、英語外部試験利用入試、日本語学校指定校推薦入試など新しい入試方式を積極的に導入し、一般入試や指定校入試の見直しを進めていることは、年ごとに変化する学生の動向に遅れることなく対応する観点から優れた取り組みであると評価される。</p>
--

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。
--

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011年度自己点検・評価報告書より)

大学の建学の精神「自由と進歩」に対する自覚に基づき、情報科学部の教育の理念・目的を正確に認識した上で教育に当たることが要請される。とりわけ、情報技術の専門家に必要となるコンピュータ科学についての知識を確実に養いつつ、進展の著しい情報技術分野において陳腐化しない技術基盤を修得するために、どのようなカリキュラム編成が適切であるか、また、どのような教育内容が適切であるかといった点を常に意識しながら教育を行なうことが求められる。

教員組織の編制においては、学部の教育理念・目的に基づき、多様かつ変化の速い情報科学分野への追従にも配慮しながら、学生に対して責任ある教育を行なうことのできる専任教員を中心に教員組織を構成する。専任教員の採用に当たっては、人事選考委員会および人事委員会により公正かつ適切な方法で行なうことができる体制を整備する。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
---	---

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
---	---

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・学部執行部：学部長、教授会主任、教授会副主任：学部活動の計画と執行
- ・主任教授会：学部執行部、研究科長、CS/DM学科主任：学部活動の集約と調整。
原則月2回開催
- ・教授会：全教員で原則月2回開催
- ・人事委員会：教員採用候補者の資格検査
- ・人事選考委員会：教授会の付託を受け、教員採用候補者を選考
- ・カリキュラム委員会：学部教育の基本カリキュラム案の策定

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学部執行部：情報科学部教授会規程
- ・教授会：情報科学部教授会規程
- ・人事委員会：内規「情報科学部人事委員会細則」

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・人事選考委員会:内規「情報科学部人事選考委員会細則」

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

教員の採用にあたっては情報専門科目教員資格についてのガイドラインに従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用している。また、教員募集前に、教授会懇談会を開き、募集領域の研究・教育分野の適切性を議論している。この結果、カリキュラムと整合性が高く、バランスの保たれた教員組織となっている。外部に向け「理系学部研究室ガイド」の p4-5 に、研究領域と教員のマトリクスを示して公開している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・理系学部研究室ガイド

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。 はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

学部と大学院の教授会は、構成員が 90%重なり、原則同日に開催している。連携が必要な議題は、両方で効率的に議論が行われ実施に移される。また、研究科主任教授会を、学部執行部、CS/DM 学科主任、研究科長、研究科専攻副主任で構成し、原則月 2 回開催しており、教学面の連携を前提とした運営をしている。主任会議の場で、学部と大学院の教授会における共通課題の審議事項を事前に確認して、重複議論にならないよう、教授会進行手順を定めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017 年度教授会開催日程

2016 年度専任教員数一覧

(2016 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教員数	うち教授数
コンピュータ	12	0	0	0	12	8	4
デジタル メディア	12	0	0	0	12	8	4
学部計	24	0	0	0	24	16	8

専任教員 1 人あたりの学生数 (2016 年 5 月 1 日現在) : 26.3 人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】 (～200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員採用にあたり、現在の学部教員の年齢構成を考慮し、できるだけ同年齢が重ならなく、かつ、若い教員を採用することを配慮している。結果として、年齢構成が高年齢化しない教員構成を維持している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・下記の年齢構成一覧参照

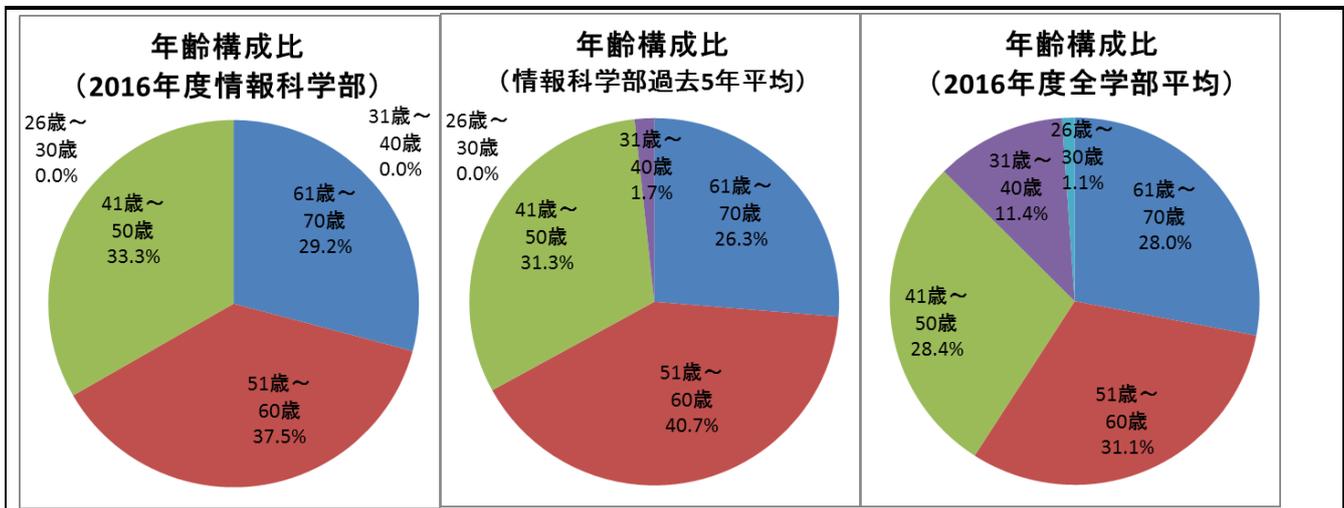
年齢構成一覧

(2016 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2016	0 人	0 人	8 人	9 人	7 人
	0.0%	0.0%	33.3%	37.5%	29.2%

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

① 各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン（2016年度に、改訂中）
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン
- ・情報科学部教授および准教授等資格内規
- ・情報科学部人事委員会細則
- ・情報科学部人事選考委員会細則
- ・情報科学部教員資格審査内規

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・募集については、上記根拠資料の通り、人事選考委員会と人事委員会を独立に組織して、選考と資格審査（法令および人事規程に合致するか判定）を進めている。
- ・昇格については、上記根拠資料の通り、教授資格のための条件を明記し、運用している。

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションが2年間で一巡する形式で実施している。
- ・全ての講義に対して、自由に授業参観を行えるルールを制定し、特に、複数教員による同一講義の他学科開講授業を中心に、講義方法の共有を図っている。

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・オープンセミナー（春学期の隔週金曜3限、教員の研究活動の発表、原則的に教員全員参加）
- ・プログラミング1(C/C++)（秋学期の全講義日程を通じて、授業参観実施）
- ・情報検索（秋学期金1限、複数教員による講義のため、相互に授業参観）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学オープンセミナー <http://cis.hosei.ac.jp/gs/courses/special/>
- ・授業相互参観実施状況報告書

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・定年退職に伴う教員採用人事が本年度から5年間に4件見込まれ、将来ビジョンに基づいて社会の変革に対応できる教員採用を進める必要がある。

【この基準の大学評価】

情報科学部の採用・昇格の基準等において教員に求める能力・資質等については、「情報専門科目教員資格についてのガイドライン」「英語教員資格についてのガイドライン」「自然科学教員資格についてのガイドライン」によって規定されている。

組織的な教育を実施する上において、学部執行部や主任教授会(月2回)、学部教授会(月2回)および学部内の基幹委員会(人事委員会、人事選考委員会、カリキュラム委員会)がそれぞれ役割を分担し、責任を持って実施している。

カリキュラムにふさわしい教員組織が備えられており、外部向けとして「理系学部研究室ガイド」に研究領域と教員のマトリクスを公開している取り組みは、教員の研究・教育分野を予めわかりやすい形・表現で情報を外部に発信する取り組みとして評価できる。

大学院教育との連携については、学部と大学院の教授会構成員は90%重複しており、教授会・主任会議等での連携は適切に行われている。

学部教員の年齢構成を考慮した上で、積極的に若い教員を採用することを配慮した結果、年齢構成が高年齢化しない教員構成を維持できている。

教員の募集・任免・昇格に関わる各種規程については、記載のガイドライン・内規・細則に規定されており、採用に関しては人事選考委員会と人事委員会を独立に組織して、選考と資格審査を独立に行なっている。昇格については、上記内規に教授資格のための条件を明記し運用している。

学部内のFD活動については、オープンセミナーや授業参観、複数教員による講義科目を通して適切に行われている。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部(学科)単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・年度末に、全学生の卒業・卒業保留・留年者を学年別や入学年度別に把握している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第326回教授会議事録「2016年度進級、卒業判定及び卒業再試験該当者について」

②学部(学科)として学生の修学支援をどのように行っていますか。 S A B

(～400字程度まで)※修学支援の取り組みの概要を記入(取り組み例:クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど)。

- ・新入生に対しては初年度のクラス担任を割り当て、新入時面談で状況の把握に勤めると共に、年度を通じて修学についての相談をしやすい環境を作っている。
- ・オフィスアワーはGBCにおいて対応することを必須とすると共に時間割に掲載し、随時修学相談を受けることができるようにしている。
- ・入学時プレースメントテストの成績を元に、習熟度別クラス編成と英語の補習授業を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・履修ガイド
- ・情報科学部時間割表

③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 S A B

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。

- ・春・秋の学期末に、留年生あるいは留年の可能性のある修得単位数の少ない学生を調査して、保護者相談会を実施して

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

いる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第 316 回教授会議事録「成績不振者相談会対象者基準」
- ・第 326 回教授会議事録「2015 年度秋学期成績不振者相談会の対象者基準」

④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。
入学時に面談を行い、履修指導などの修学支援が必要か否かを確認している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第 327 回教授会議事録「2017 年度新入生対応」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・卒業研究関連の取り組みで、通年にわたり研究の進行を助け、その状況を把握する仕組みを検討する。
- ・新入生の時点で担任面談等を通して、早期に抽出した問題を抱える学生に対する指導について、学生相談室等の学内機関との連携を模索する。

【この基準の大学評価】

情報科学部の卒業・卒業保留・留年者等の状況の学部単位での把握については、年度末に全学生のデータを学年別・入学年度別に把握している。

学生の修学支援の取り組みについて、新入生に対して初年度のクラス担任を割り当てることで新入時面談で状況の把握に努めていること、入学時プレースメントテストの成績を元に習熟度別クラス編成と英語の補習授業を実施していることは、新入生に対する修学支援として高い効果が期待される。加えてオフィスアワーを GBC において対応することを必須とする取り組みは、いつでも気軽に修学相談を受けることができる雰囲気を作る観点からも優れた取り組みであると評価される。

成績不振学生への対応については、春・秋学期末に、留年生あるいは留年の可能性のある修得単位数の少ない学生に対して保護者相談会を実施しており、適切に対応されている。

外国人留学生の修学支援については、入学時に面談を行い、履修指導などの修学支援が必要性を確認して対応している。

IV 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		今後数年にわたり、毎年、定年退職に伴う教員採用人事を行う必要があり、将来ビジョンに基づき、変革に対応できる教員採用ガイドラインの見直しを進める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	「英語教員資格についてのガイドライン」を整備した 今後の教員組織像について、教授会懇談会で意見交換を行った
	質保証委員会による点検・評価	ガイドライン整備がなされ必要に応じた対策がなされている。将来ビジョンの教員間での議論も進んでいる。ビジョンのさらなる明確化と教員採用ガイドラインの見直しを引き続き進めていく必要がある。
評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		・2015 年度の新カリキュラムの完成年度を目標に、具体的な教育指導内容の充実をはかる。 ・カリキュラム完成年度に向けて、カリキュラムの評価を行い、次のカリキュラム改革に向けた議論を開始する。
年度末	教授会執行部に	新カリキュラムにおける新規開講科目（主に 2 年生配当科目）の教育内容の整備を行った

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

報告	よる点検・評価	次年度に新規開講となる新カリキュラムの科目について、カリキュラム委員会を中心に講義内容の確認・調整を行った。
	質保証委員会による点検・評価	旧カリキュラムに比べ前後の科目の連携が改善され、教育内容の整備がなされたことは評価できる。この結果に基づいて新規の3年配当科目をはじめとした教育内容について検討が行われ、確認、調整が適切になされた。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		2015年度にカリキュラム改革を行い、単位認定と先修条件の分離を行った。これに伴う「学び直し科目」の実際の実施が2016年度に行われるため、学生の学習達成度の効果について分析を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	「学び直し」の対象科目について、履修状況と単位取得/成績状況の分析を行った 2016年度は5科目に置いて22名(延べ人数)が学び直しの履修を行い、73%にあたる16名が合格したことから、学び直しによる学習達成度の向上が認められた。特に、A+が14%、Aが27%と、合格者の半数以上が良好な成績であったことから、その効果は高いと考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	多くの学生が2度目以降の履修で、後継科目履修に必要な学修を達成し、施策の効果が現れている。2度目で合格した学生へのインタビューを実施するなど、効果のさらなる検証を行い、次期カリキュラム改革に向け別科目での適用可能性を探ることが望まれる。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		新カリキュラム導入による学生の単位取得、成績分布の変化に関する分析調査を進める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	2年次まで進捗した新カリキュラムの単位取得状況について集計・分析を行った。 2年次終了段階で、73%が80単位以上、84%が70単位以上を取得しており、学修が順調に進んでいる。 成績については、累積GPAでみて、3.0以上が10%、2.5以上が30%、2.0以上が60%となっており、1.0を切る学生は3%と、殆どの学生が一定のレベルには到達している。 ポートフォリオについては、学生の利用が多い学修成果(GPA、TOEIC、学内順位)の確認に主眼を置いたシステムに移行した
	質保証委員会による点検・評価	学期開始時ガイダンスで学生に示している80単位という指標を大半の学生が達成していることが評価できる。次年度も引き続きデータをとり、年次推移の観察を行う等の分析を行うことが重要である。また、時期カリキュラムの検討に用いるためにも、コース別での単位や成績の分析が必要である。ポートフォリオについてはより使いやすいシステムに移行された点が評価できる。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		2016年度入試から、公募推薦入試、英語外部試験利用入試などを新規に実施した。今後、公募推薦の入試経路の学生の成績調査を進める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	2016年度から始まった、公募推薦、英語外部試験利用入試、日本語学校推薦について、他の入試経路との成績傾向の違いについて分析を行った 公募推薦については、GPA平均が2.17と、通常の指定校推薦の2.12より良好で、A日程からの入学経路の平均と変わらなかった。また、日本語学校指定校の学生も2.5に近いGPAを取得しており、新しい入試経路の導入からは今のところ良好な結果が得られている。
	質保証委員会による点検・評価	多様な入試形態に対する分析が適切に行われている。結果をさらに観察するため2年次終了時点での調査を引き続き行う必要がある。また公募推薦が良好だった結果を受け、推薦入試における査定の方針などの検討をさらに進めていくことが望まれる。
評価基準		学生支援
現状の課題・今後の対応等		・成績不振学生として、毎年名前が挙がる学生について、適切な指導を行う。 ・新入生の時点で担任面談を通して、問題を抱える学生を早期に抽出し、適切な指導を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	・成績不振面談に複数年にわたり呼ばれる学生を抽出し、次年度冒頭での指導の準備を行った(秋学期成績が出たところで一括処理の予定) ・新入生に対して2名の担当教員を割当て、入学直後に面談を行った。面談の結果で注意を払う必要があると思われる学生については執行部に情報を集約し、年度内に上がってくる個別案件において参照し、学生状況の把握に活用している(まだ具体的対応の段階ではな

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		いが、1名の学生について状況の追跡を行っており、進級したことで単位取得状況を確認している)
	質保証委員会による点検・評価	面談などを通して必要な指導がなされている。面談の情報はさらなる活用法を検討し、学生の追跡等を効果的にすることが望まれる

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

2015年度からの新カリキュラムに関連し、新規開講科目の教育内容や学び直しの効果、学修状況の把握など適切な点検・評価が行われている。新カリキュラムの完成年度に向け、今後も継続的な点検・評価を期待したい。

学生の受け入れについて、2016年度入試から導入した公募推薦入試は新しい入試制度として先端性の高い取り組みであることから、入学者の学修状況を追跡した結果とその効果及び評価について、他学部も参考になるような報告の機会を持たれることを期待したい。

定年退職に伴う教員採用人事について、将来ビジョンに基づいて社会の変革に対応できる教員を採用することは、情報科学部の将来にとっては極めて重要な課題である。ぜひ10年20年先を見据えた見通しの良い人事になることを期待したい。

学生支援については、新入生に2名の担当教員を割り当て、早いタイミングで早期に抽出した問題を抱える学生に対する状況を追跡し、きめ細かい指導に繋げようとしている点は高く評価できる。今後は学生相談室等必要な学内機関とも連携し、適切な対応を取る仕組み作りを期待する。

【大学評価総評】

情報科学部は理念・目的に「単にできあがった技術や理論を知識として受け身的に学ぶだけでなく、日々進歩している情報技術分野において、社会に出ても陳腐化しない確固たる技術基盤を確立した人材を育成すること」を掲げている。この理念・目的を実現するために、学問体系として変化の少ない基盤部分としては情報科学分野の国際・国内学会で策定されたカリキュラムに準拠した構成・内容を取り入れると共に、技術の進歩に応じて変化する最先端部分には各教員の研究内容を位置づけることで、プロジェクト形式の教育、卒業研究を推進している。理に叶った考え方の試みであり高く評価できると共に、継続的にその経過を観察すると同時に更に発展させるべく積極的な仕組みの改善と独自の取り組みにも期待したい。一方で、学士力の向上のための取り組み、教養教育、高大接続、国際性の涵養、及び履修指導など先端かつ積極的な取り組みがなされている部分は高く評価できる。また学生の受け入れについて、公募推薦入試等の新しい入試制度への取り組みは、その効果や学生の追跡結果の検証を見守りたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。